

フジテックDXレポート

DXに関するトップメッセージ

フジテック・グループのDX

当社の最優先の使命は、エレベータ・エスカレータの“安全・安心”を追求することです。この“安全・安心”は、利用者の皆さんにとって“安全・安心”な商品・サービスを提供してだけでなく、生産や保守、据付など昇降機の事業に関わるすべての従業員やパートナーの“安全・安心”も重視しています。

DX(デジタルトランスフォーメーション)は、“安全・安心”の追求に欠かすことのできないものとして現業で活用が進んでいます。例えば、AI/機械学習を活用したエレベータの遠隔監視システムによる保守の質を高める取り組みを進めています。

また災害時にも強いエレベータ・エスカレータへの対応として、ITを用いて損害を最小限に留める工夫や、早期復旧を実現する仕組みづくりも進めています。

昨今、ますます重要性の高まっている情報セキュリティの強化では、予想せざるサイバー攻撃への備えとしてシステムの耐障害性を高めるのはもとより、従業員のセキュリティ意識のさらなる向上に努めています。

中期経営計画「Vision24」の戦略方針としては、「プロセス革新とコストダウン推進による新設事業の拡大と収益性の改善」、「商品・サービスのラインアップ拡充によるアフターマーケット事業の拡大」や「ITを活用した収益性の向上」などを重点的に実施していきます。



代表取締役社長
岡田 隆夫

経営環境分析

事業環境変化をもたらす世界のメガトレンド

アジア経済の台頭、環境規制、先進技術等の将来予測も考慮し、長期戦略を策定

| | |
|---|---|
| Politics (政策・法規制) <ul style="list-style-type: none"> 環境規制/炭素税の強化 再生可能エネルギー ナショナリズムの高まり | Economy (経済) <ul style="list-style-type: none"> 世界経済のパワーシフト(中国、インド、インドネシアの成長) アジア経済成長の内需シフト 貿易摩擦と輸出入規制 |
| Society (社会) <ul style="list-style-type: none"> 都市化の進展 DXによる社会システムの変革 世界人口の構造変化とニーズの多様化(アジアやアフリカの台頭、高齢化) | Technology (科学技術) <ul style="list-style-type: none"> 自動運転技術 AI/機械学習 ロボティクス |

経営理念と「Vision24」

フジテック・グループは、昇降機の専門メーカーとして世界中のお客さまのニーズに一貫体制で応えています。これまで培ってきた技術力、信頼品質、柔軟な対応力を活かし、世界中の国々ですべてのステークホルダーの“安全・安心”を最優先に、グローバルレベルでの生産性・効率性の向上を実現し、“フジテックブランド”を拡大すること

で、世界の都市機能の発展に貢献していきます。

当社は、経営理念に基づき、経営の目指す姿、そしてサステナビリティの重要課題であるマテリアリティを定め、2022年度(2023年3月期)から始まる中期経営計画「Vision24」を策定しました。

経営理念

フジテックは、人と技術と商品を大切に、新しい時代にふさわしい、美しい都市機能を、世界の国々で、世界の人々とともに創ります。

経営の目指す姿

すべての人々への“安全・安心”、快適な移動空間の提供と次世代の都市における社会課題の解決によりステークホルダーの皆さまの期待に応える

マテリアリティ



「Vision24」

すべての人々への価値提供を目指して、市場シェアの拡大を加速



中期経営計画「Vision24」の投資計画(2022年度抜粋)

収益性向上投資
9億円

IT活用促進：遠隔監視装置の拡大
(クラウド支出比率 40%)

マテリアリティと主要テーマ

| マテリアリティ | SDGsゴール | 主要テーマ | 取り組み |
|--------------|---|-----------------------|---|
| “安全・安心”の追求 | 8 働きがい を促進する 8 9 産業と 雇用の 持続可能な 成長を 実現する 9 11 持続可能な 都市と コミュニティ 11 | 利用者の“安全・安心” | <ul style="list-style-type: none"> 利用者の重大事故の防止 啓発活動の推進 |
| | | 商品・サービスの“安全・安心” | <ul style="list-style-type: none"> 災害に強いエレベータの技術開発 安全性の高いエスカレータの技術開発 フィールドエンジニアの技能追求による安定的な商品・サービスの提供 |
| | | 従業員の“安全・安心” | <ul style="list-style-type: none"> 安全衛生管理指針の徹底 “安全・安心”を最優先とした従業員の業務環境の提供と健康の増進 |
| 多様な人材の活躍推進 | 4 質の高い 教育を 実現する 4 5 ジェンダー 平等を 推進する 5 8 働きがい を促進する 8 10 人や国 ごとの 格差を 是正する 10 | 基本的人権の尊重 | <ul style="list-style-type: none"> 企業行動規範の浸透強化 サプライヤーポリシー策定による人権方針の徹底 |
| | | 多様な価値観を認め合う企業風土の醸成 | <ul style="list-style-type: none"> 社員の多様性を認め合う職場環境・制度の整備 組織の枠にとらわれない人材交流を通じた組織力の強化 デジタル活用による多様な働き方の実現 |
| | | 闊達・澆刺とした人材の育成 | <ul style="list-style-type: none"> グローバルレベルでの技能伝承 風通しの良い組織風土醸成に向けたグローバル人材の養成 個の成長を促す包括的な人材育成の促進による組織の進化 |
| 技術・商品力の向上 | 9 産業と 雇用の 持続可能な 成長を 実現する 9 11 持続可能な 都市と コミュニティ 11 | 美しい都市機能の実現 | <ul style="list-style-type: none"> フジテックらしさを追求したデザインの開発 |
| | | 新しい時代にふさわしい技術革新 | <ul style="list-style-type: none"> 新生活様式・多様な社会に適合した商品、地球環境に配慮した商品の開発 安全・環境の性能を高めるモダンゼーションパッケージの開発 |
| | | 強靱な社会インフラの提供 | <ul style="list-style-type: none"> AI・IoT活用による予知保全・災害時早期復旧を可能とする技術開発 遠隔監視システムのグローバル展開強化 昇降機稼働診断システムによるサービス品質の向上 |
| 環境負荷低減への取り組み | 7 持続可能な エネルギー を確保する 7 11 持続可能な 都市と コミュニティ 11 12 持続可能な 消費と 生産の パターン 12 13 気候変動 や汚染に 対する 気候変動 対策 13 | 気候変動に対応した低炭素社会への貢献 | <ul style="list-style-type: none"> ISO 14001に基づくエネルギー使用量・GHG排出量・廃棄物の管理・削減施策の推進 温暖化対策・脱炭素の取り組みに関する社内教育徹底による当事者意識の醸成・強化 商品・工法改良による省資源化・廃棄材料の削減・リサイクル化の推進 |
| | | 省エネルギー対応力の強化 | <ul style="list-style-type: none"> 環境配慮型商品・サービスの拡充 |
| | | 商品ライフサイクルマネジメントの実践 | <ul style="list-style-type: none"> パートナー企業と連携した業務効率化の改善による環境効率性の向上 |
| 社会・地域との共生 | 6 安全な 水と 衛生を 確保する 6 11 持続可能な 都市と コミュニティ 11 15 持続可能な 生態系を 守る 15 | 社会との調和 | <ul style="list-style-type: none"> 多様な人々の相互理解と文化発展を促す場の提供 |
| | | 地域との共栄 | <ul style="list-style-type: none"> 地域社会の子どもたちに向けた教育支援 地域社会の自然環境・景観保全に向けた活動の促進 |
| 企業価値を支える経営基盤 | 16 公正な 社会と 法の 支配を 実現する 16 | コーポレート・ガバナンスの強化 | <ul style="list-style-type: none"> 取締役会運営の実効性の向上 社外取締役への情報共有に関するサポート体制の強化 |
| | | 充実したステークホルダーコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーコミュニケーションの拡充 |
| | | 企業価値を支えるリスクマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> グローバルレベルでのリスクマネジメント方針共有と一元管理体制の確立 データセンターのクラウド化による情報セキュリティリスクの低減 |
| | | コンプライアンスの徹底 | <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス推進指針の制定と社内周知・研修の継続 |

DX担当役員メッセージ

“安全・安心”とデジタルツイン実現に向けたDX

専務執行役員
デジタルイノベーション本部
本部長
友岡 賢二



フジテックのDXとは

フジテックのDX(デジタルトランスフォーメーション)の目的は、お客さまの“安全・安心”に貢献することです。当社のDX推進はデジタルイノベーション本部が担当しています。当本部はR&D機能を担うテクノロジー研究部、基幹システムの開発、運用を行うシステム管理部、業務革新を進めるプロセス管理部から構成されています。当社では基幹システムを内製しています。これは当社の

強みであり、今後もこの強みを伸ばすため、社内エンジニアのスキルをさらに高めていきます。一方で、ノンコア領域の業務については、積極的に社外クラウドサービスを利用しており、現在は35のクラウドサービスを利用するほどに変革しました。社内エンジニアの内製スキルと社外サービスの目利き力を高め、現場の働き方を改革し、顧客提供価値を向上していきます。

DXのその先へ。デジタルツインの実現を目指す

当社が目指すDXビジョンは「デジタルツイン」*の実現です。例えば、フィールドエンジニアの作業工程をデジタル上でシミュレーションし、AIが最適な作業工程を決め、それによって現場が動く。つまり過去の経験とデータがあ

れば誰もが同じ判断を下す「量的意思決定」はシステムに任せ、人間は本来能力を発揮すべき、正解のない未来をつくるための「質的意意思決定」に時間を使えるようにしたいと考えています。

* 現実と同じ環境を“映し鏡”のようにデジタル上に再現するもの

デジタルツインの実現に向けて

中期経営計画「Vision24」のもと、これまで国内で積極的に展開してきたエレベータの状態監視をリモートで行う「遠隔監視システム」の海外展開を強化しています。新型コロナウイルス感染拡大時のロックダウンによって当該地域の現場に近づくことすらできない事態が世界中で発生しました。現在、エレベータの通信モデムからAWS (Amazon Web Services) にデータを蓄積し、リアルタイムで遠隔から監視できる仕組みを積極的に海外展開しています。

このほか、現場の状況を可視化するために構築したGoogle マップ統合地図システム「All on Maps」*をさらに進化させ、広域災害などでエレベータやエスカレータが大量に

停止した際、「どのフィールドエンジニアがどの現場にどの順番で訪問、復旧作業をすれば、全体のダウンタイムが最も短くなるのか」をAIが推奨するシステムをリリースしました。

フジテックの推進するデジタルツインは、商品・サービス・お客さまをデジタルプラットフォーム上で滑らかにつなぎ、お客さまへの提供価値を高めて行くことを目指しています。今後はお客さまの持つプラットフォームと当社のプラットフォームをAPI (Application Programming Interface) でつなぐことでサイバー空間と現実空間での新たな顧客価値創造を目指します。

* 稼働状況や修理履歴など各エレベータに紐づく情報を地図上から入手でき、保守の状態を色分けしてフィールドエンジニアが状況を把握できるシステム

主なデジタル技術の活用

統合地図システム「All on Maps」のさらなる進化

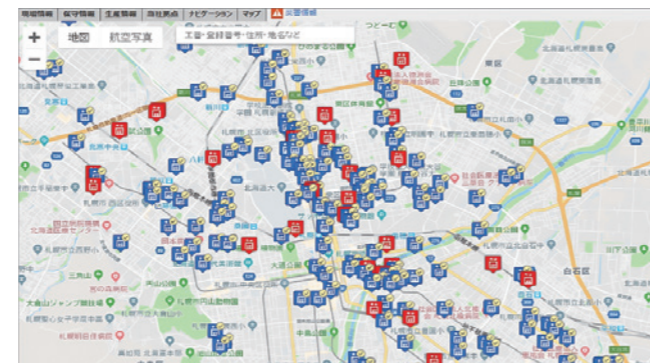
2015年に地図を入口に各種社内システムの情報を簡単に閲覧できるシステム『All on Maps』の運用を開始しました。既存社内システムや災害データなどをGoogleマップのAPIと連携することで、地図上に表示された当社納入物件のアイコンから昇降機の仕様、保守履歴、図面、技術資料などの情報をいつでもどこでもセキュアに参照することが可能になりました。

2017年には同サービスを現場作業でより使いやすいツールにするため、スマホ版アプリで提供開始。その後2019年には、広域災害などで大量にエレベータが停止した際に、最適な出向手配をAIがアドバイス、通知する「復旧支援システム」を構築。災害後の初動対応および全体復旧時間の短縮を支援しています。

また、この取り組みが評価され、公益社団法人企業情報化協会 (IT協会) が発表する「2020年度 (第38回) IT賞 (顧

客・事業機能領域)」を受賞しました。

広域災害時の保守員の手配のさらなる高度自動化など、お客さまの“安全・安心”のためのシステムはさらに進化し続けます。



被災地域のエレベータを地図上に色分けしたアイコンで表示して復旧対応の可否を見える化。デジタルを活用した復旧支援で保守員の現場派遣を迅速にし、エレベータの早期復旧に向けてシステムを常にバージョンアップ。

ビル管理者向けウェブサービス「エレモリ」を提供開始

「エレモリ」は、エレベータ・エスカレータの稼働状況などを時間や場所を問わずにパソコンやスマートフォンで確認でき、外出先からも機能の設定が可能なビル管理者向けの新たなウェブサービスです。専用ページにログインすると、稼働状況など各種情報や運行機能の閲覧・設定が可能です。遠隔監視などエレベータ・エスカレータのメンテナンスサービスを応用することで、迅速な情報提供や利便性向上につなげています。



「エレモリ」サービス画面(イメージ)

昇降機の保守・技能教育にスマートグラスを導入

昇降機のメンテナンスなどを行うフィールド業務に、技能伝承や生産性向上のため、「スマートグラス」(メガネ型ウェアラブル端末)を導入しました。フジテックでは、ITを活用した教育の充実を目的に、ハンズフリーで作業状況の映像を中継できるスマートグラスの導入を検討し、2015年からPoC (概念実証) を重ねてきました。近年、ハード面の高性能化が進んで活用効果が期待できると判断し、7年越しで本格導入を開始しました。

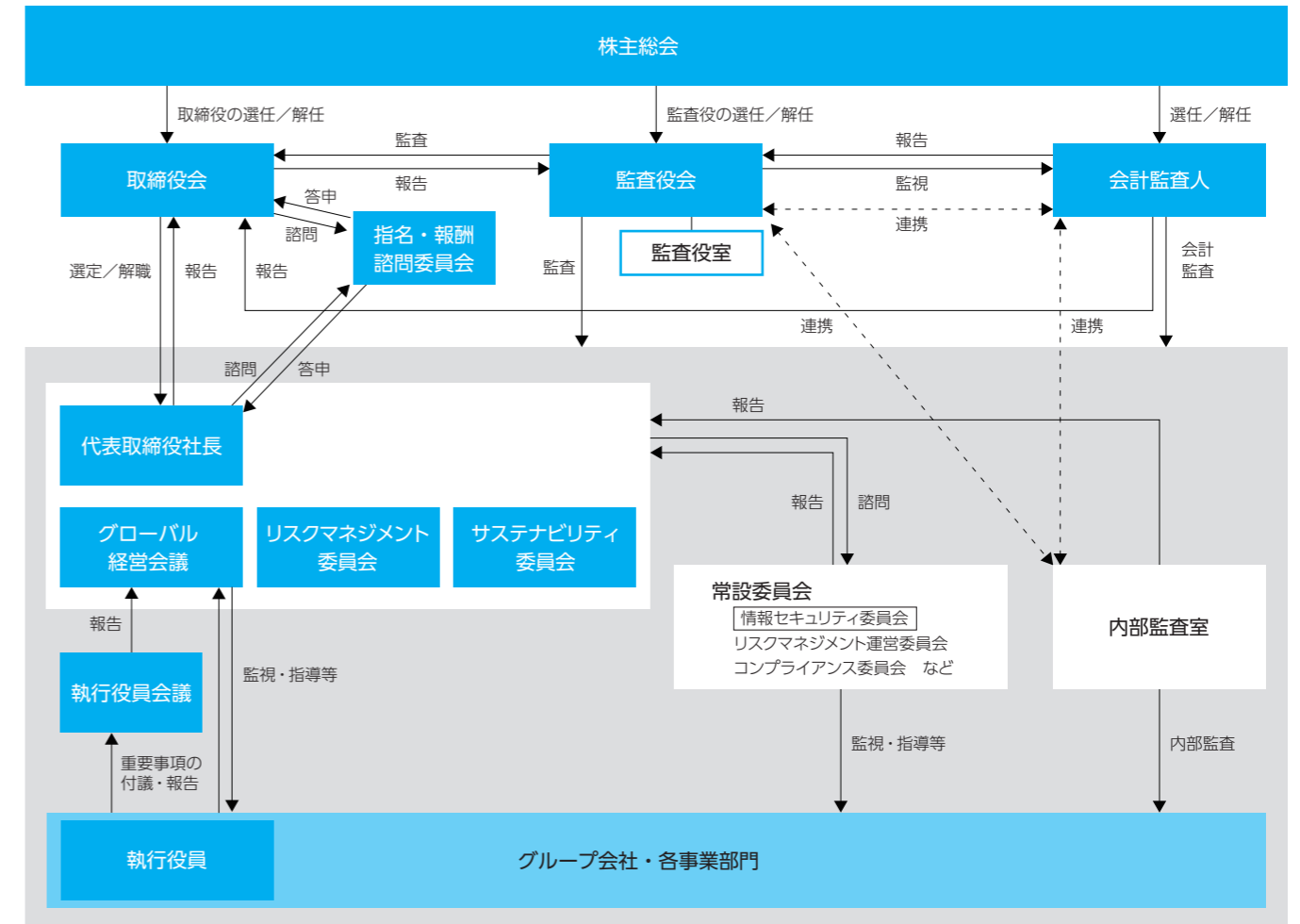
フィールド業務では、スマートグラスを活用し、熟練技術者が保守現場の監査を行う「安全パトロール」を一部リモート化しています。現場で作業する技術者がスマートグラスを装着し、熟練技術者はビデオ通話を介してオフィス

からリアルタイムで指導を行います。これにより、熟練技術者の移動時間を削減し、安全パトロールの頻度を増やすことが可能になりました。

スマートグラスの導入では、情報システム部門が現場での課題解決に向けた提案活動と、導入トレーニングなどを支援しました。部門を超えて密に連携する当社一貫体制と、ITによる業務支援を内製する情報システム部門の強みがDXの定着を促進しています。



コーポレート・ガバナンス体制



情報セキュリティ委員会

情報セキュリティ委員会では、セキュリティの維持向上をもって情報資産の保護を図るために、セキュリティ・ポリシーおよび対策基準等を定め、情報ネットワーク・システム・機器の使用、取り扱いおよび管理の在り方などを検討、審議のうえ、その指導教育および啓発活動を行っています。具体的には、セキュリティインシデントの発生事例や外部からのサイバー攻撃などを題材とした情報セキュリティ学習や、攻撃を想定した模擬メールを全従業員に送信する訓練を実施するなど、社員のセキュリティ意識の

向上に努めています。この情報セキュリティ委員会を母体として組織したFUJITEC-CSIRT (CSIRT: Computer Security Incident Response Teamの略) は、ITの側面のみならず、顧客対応、コンプライアンス対応、プレス対応などの側面も十分に考慮のうえ、平常時の情報収集・教育活動に取り組むほか、インシデント発生時には調査、原因分析、復旧対応、社内外のステークホルダー対応などを行っています。